

市議会だより

令和元年 5 月号

〒583-8585 羽曳野市誉田 4-1-1

羽曳野市議会事務局 Tel. 072-958-1111

<http://www.city.habikino.lg.jp/17gikai/index.html>

- 1 第 1 回定例会
編集委員会より
QR コードの掲載について
お詫びと訂正
- 2～6 各会派代表質疑

平成 31 年第 1 回定例会報告

「市長の施政方針に対する各会派代表質疑」

第 1 回定例会

平成元号として最後となる平成 31 年第 1 回定例会は、2 月 26 日から 3 月 26 日まで 29 日間の会期で開催しました。

今定例会では、平成 31 年度施政方針に対する 5 会派の代表質疑、9 名の議員による一般質問が行われ、また条例の制定や一部改正、一般会計・各特別会計・水道事業会計の平成 30 年度補正予算及び平成 31 年度の当初予算など、36 件の議案を審議しました。また、意見書案 2 件「食品ロス削減に向けてのさらなる取り組みを進める意見書」、「農林水産物・食品の輸出強化を求める意見書」の審議が行われ、全会一致で可決しました。

今月号では代表質疑を中心に報告し、一般質問、各常任委員会等の報告は、6 月号に掲載いたします。

◆ 編集委員会より ◆

平成 31 年第 1 回定例会では、北川市長の平成 31 年度施政方針が示され、施政方針に対する 5 会派による代表質疑が行われました。今月号はその質疑の主な内容について掲載いたします。

今月号より、新しい取り組みとして「QR コード」を添付しました。ぜひ読み取って、アクセスいただき、議会の録画映像をご視聴ください。

これからも、わかりやすく、議会を身近に感じていただける誌面づくりに努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

● QRコードの掲載について

「市議会だより」の平成 31 年度施政方針に対する 5 会派の代表質疑の掲載ページに、代表質疑時の録画映像を視聴できる QR コードを、今月号から添付しました。

スマートフォンやタブレット端末で、録画映像をご覧になりたい議員の QR コードを読み取ると、「羽曳野市議会録画中継」サイト内の該当ページにアクセスでき、録画映像を閲覧することができます。ぜひご視聴ください。

【市議会だより編集委員会より

お詫びと訂正】

市議会だより平成 31 年 2 月号の 2 ページ左下端に掲載しております、「市議会だより編集委員会」の表中、議員名におきまして掲載誤りがございました。お詫びして訂正申し上げます。

(誤) 竹本 真琴

(正) 上数 弘治

《市議会だより編集委員》

笹井 喜世子 上数 弘治 通堂 義弘
百谷 孝浩 花川 雅昭 広瀬 公代
松村 尚子

黒川実 (自由民主党議員団)



《地域資源の魅力を効果的に発信するための取り組みについて》

●**質疑** ①本市の農産物や特産品の魅力を市内外の方に感じてもらう取り組みは。②地域全体のホスピタリティの向上とは。③浅野家住宅(旧オキナ酒造)跡地を観光、産業、交流の拠点とするところが、運営はどうするのか。

●**市長** ①ふるさと納税でのPRや市のウェブサイトをテレビ放送、華やいで大阪観光協議会等、組織のイベントに参加している。②地元の力を借り地域の方々と力を合わせ取り組む。③羽曳野版DMOで取り組んでいく。

●**要望** ①ラグビーワールドカップ、G20など羽曳野市を売り込むチャンス。当市の魅力を感じる存分に発信してほしい。②夏場石川の河川敷を利用しワインやバーベキューなどを楽しんでいた取り組みなど、色々と考えてほしい。③DMOで取り組むが、跡地利用にバーチャルリアリティ・仮想空間体験で酒造りの風景や酒造りの体験などの取り組みも考えてみてはどうか。

《就学前教育のあり方について》

●**質疑** ①「こども未来館たかわし」において、幼稚園での3歳児保育は市長が目指す教育現場になっているのか。問題点や今後の対応は。②「はびきの殖生学園」で小規模特任校制度を開始するが、今後、ほかの校区指定の地域

でも考えているのか。

●**市長** ①落ち着くまで少し時間がかかったが、日々の保育や行事で一定の評価を上げている。今後実際のニーズを把握して充実を図る。②現段階では他校での実施は考えていない。

●**要望** 初の取り組みで先生には苦労があると思われる。園と常に意見交換をして運営するようお願いする。

《水道事業、下水道事業について》

●**質疑** ①国で水道法改正案が成立したが、本市の民間委託への考えは。②下水道工事の困難な地域や市街化調整区域への今後の考えは。

●**市長** ①大阪広域水道企業団の方針は公設公営を宣言しており、民営化にくみしないことと示されている。②市全体を眺めながら効果的に整備を進める。

●**要望** コスト面を考えた効果的に進めてほしい。水道利用量が減る中、下水道事業は効率よく運営を要望。

《地域がつながり 安全で心安らぐまちより》

●**質疑** ①同報系防災行政無線をデジタル化する必要性は。②地域防災計画の見直しについて。

●**市長** ①平成29年11月30日以降アナログ無線免許が交付されない。デジタル化により電波が安定し、クリアな音質で伝達が可能。②近年の自然災害により1月から検討委員会での議論。国や府の上位計画の改定に伴う必要な修正も実施することとしている。

《ペアレントサポート事業について》

●**質疑** ペアレントサポート事業とは。

●**市長** 来年度からペアレントメンター事業を、大阪府が養成したペアレントメンターの派遣を受けて実施する。

●**要望** 発達障害の児童がふえ、幾ら国の予算がつくかわからないが、色々

な悩みを持つ親御さん、子どもたちに早く実施していただくことを要望する。《未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまちより》

●**質疑** ①学校施設長寿命化計画とは。②給食センター新築に伴いPFI手法の取り入れを考えているのか。③留守家庭児童会への支援の強化とは。

●**市長** ①老朽化施設を効率的なメンテナンスサイクルの実施や予防・保全的な改修等により機能や性能の水準を維持し、長く使い続けることでコストを削減し財政負担の平準化を図るもの。②来年の基本構想策定後検討していく。③退職教員に、2カ所の児童会に週1回の割合で起用することを考えている。

●**要望** ①安全のため建てかえも視野に入れ、基金の創設を検討してほしい。②PFIを取り入れる場合は、職員の就労、給与保証の約束をしてほしい。利益優先になり職員の負担増、減給などないように願う。③2カ所、週1回では少ない。今後ふやしてほしい。

《魅力発見 賑わいと創造にあふれるまちより》

●**質疑** ①今後の観光ボランティアガイドの育成は。②羽曳野市中小企業振興基本条例とは。

●**市長** ①今年度、研修会を9回実施した。今後は観光協会と協力し、育成を支援する。②中小企業の振興に関する基本理念、市の責務、中小企業者及び大企業者、商工業者団体の努力、市民の理解及び協力等を定めるもの。

●**要望** ①緊急時の対処方法等も研修に取り入れてほしい。②中小企業の支援のために補助金等、新しい取り組みをお願いする。

《歴史・文化が息づき 心身ともに躍

動するまちより》

●**質疑** ①市民プールを屋内温水プールにするが、専用遊具などの設置は。②デジタル化資料を閲覧・複写できるサービスの開始とは。

●**市長** ①次年度より基本計画策定に取り組み予定で、答えられる段階ではない。②現在手に入らない古籍籍、博士論文等、約1,500万点をパソコンで見られるサービスで、中央図書館で受けることができる。

●**要望** ①子どもたちがプールで遊びたい滑り台や遊具を設置し、他市に誇れる市民プールを要望する。

《市民とともに築く 自立したまちより》

●**質疑** ①RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)の検証とは。②後期基本計画策定の実施時期は。③地方税共通納税システム導入でのメリットは。

●**市長** ①ロボットによる定型業務の自動化、情報取得や入力作業、検証作業に利用でき、今年度試験的に導入し費用対効果などの検証を行うもの。②31年度は課題等を整理、分析し、市民アンケートを行い、基礎データを収集、分析予定。調査結果を踏まえ、32年度には策定する。③全ての地方公共団体に電子納税が可能で、複数の地方公共団体の納税も一度の手続きで可能。事業主の納付事務の効率化に寄与するもの。

●**要望** ②市民が住んで良かった、住み続けたいと思える後期基本計画の策定を望む。市政方針には、命に関わる医療体制や医療圏について示されていない。魅力を発信して、安心をもたらす、子ども・若者を育み、移住を考えてもらうには、小児科をはじめ充実した医療体制が必要であるため、目を向けることを強く要望する。

田仲基一（大阪維新・無所属の会）



●**質疑** 当市のかかるさと納税収支マイナスイタス年間8,615万円、転出過多11年間で4,651人という数字をどう考えるか。

●**市長** 良いふるさと納税制度の実施を目指して更に検討を加えていきたい。転出超過はここ2年改善の兆しが見えている。あらゆる施策事業を重ね合わせ好循環を生み出す必要がある。

●**要望** 以前聞き取った転入理由のアンケートで多かった回答は、「親の介護・同居」だったことから、潜在的にUターン志向の方が多いのではと指摘し、その背中を押す助成制度の検討も提案した。税収確保については古墳群に注目が集まる本年、ふるさと納税返礼品を見直し、古市古墳群の世界遺産登録を応援したい全国の方々が納税をしたくなる品を追加するのも即効性があるのではないかと。またクラウドファンディングを活用した行政施策も各地で行われている。若い職員の知恵を借り発展につながる施策へ積み上げてほしい。

●**質疑** 市営向野住宅の集約建替の今後の見通しはどうなっているのか。新規入居者募集はいつ開始されるのか。

●**市長** 向野全団地19棟のうち、耐震化が必要な11棟の住宅を1カ所に集約して建て替える。8階建てで、整備戸数は約80戸。整備完成予定2022年秋をめどにする。

●**要望** 3年後に完成という見通しをもらった。地域には仮移転されている方だけでなく、新規入居希望者もいる。遅延せず進めてほしい。

●**質疑** 恵我ノ荘駅前整備事業での駅前広場・踏切の一体整備について。

●**市長** 大阪府に対し、踏切北側で歩行者の支障となっている電柱の移設、踏切内での交通事故防止のため路肩のカラー舗装化をお願いしている。

●**要望** 次の段階として阿部野橋方面から下車した際の人だまり空間の確保、駅舎東側敷地の一部を活用して踏切を拡幅・車歩道分離を行い、より安全な踏切周辺の整備を要望する。

●**質疑** 恵我ノ荘の将来のためには駅北側拡幅にも取り組むべきと考えるが。

●**市長** 大阪府への予算要望等を通じて延伸の必要性を訴えている。

●**要望** 駅南側の整備で終了することなく、恵我ノ荘・南恵我ノ荘の地域住民に納得してもらえる都市基盤整備に向け、継続して取り組んでほしい。

●**質疑** 高鷲北幼稚園跡地利用は地域の声を受けとめた内容になるのか。

●**市長** 地域交流拠点として花や緑に触れながら自然を感じて、多世代が集う憩いと交流の空間、防災・防犯機能も整えたい。素案が整った段階で地域の皆様に示し意見を聞く。

●**要望** 隣接する吉村家住宅と一体化した整備をし、島泉地域の誇りである吉村家住宅をより多くの方々に親しんでいただけるような工夫を望む。

●**質疑** （仮称）西部こども未来館整備は、地域住民や利用者の声を受けとめた内容となっているか。地域協議会設立が必要と考えるがどうか。

●**市長** 現在基本設計を進め秋には着工予定。地域や保護者・関係者には近

いううちに基本的な考え方を説明する。園の運営運用についてはその後も意見を聞きながら2021年4月開園を目指す。

●**要望** 整備に伴い廃園予定の恵我ノ荘・丹比幼稚園及び受け入れる向野保育園の保護者・地域住民が不安や要望を訴えに来る。みな子どもの環境をよくしたいという気持ちは同じ。納得した形で進めるためにも市民を交えた協議体の設定を再度要望する。

●**質疑** 南河内全ての自治体で留守家庭児童会は土曜通年開催される中、当市だけなぜできないのか。

●**市長** 近隣市を含め多くの市が実施しているが、当市ではまずは待機児童を出さない運営に全力を挙げている。

●**要望** 待機児童を出さなと土曜通年開催は両立可能。常に当市が近隣の後追いを続けたツケが人材不足という形で現れたのなら、当市の子育て世代はその被害者ではないのか。この対応の鈍さが転出者増加につながっているのではないかと。府下ほとんどの自治体で実施する土曜通年開催を要望する。

●**質疑** 羽曳野版DMOについて大阪観光局や民間企業等、外部との連携は。

●**市長** 観光庁を初め、大阪観光局など、当市の取り組みをサポートしてもらえらる機関とは連携を図っていききたい。

●**要望** 大阪市に空前絶後の観光客が押し寄せるようになったのは、大阪市の行政マンの能力が観光行政に特に優れていたからではない。大阪城公園の管理を大手広告代理店に全面的に任せたとように、行政のコミットを最小限にし、民間の発想力・資本力を最大限に発揮させたから。観光庁や大阪観光局には民間を生かすノウハウがあ

る。当市の取り組みのサポートを求めるべき。

●**質疑** 世界文化遺産登録に向け、「百舌鳥古墳群との相互アクセスの改善を推進」とあるが、具体的な方策は。

●**市長** 7月から来年3月まで大阪府主体の堺、藤井寺、羽曳野各市1カ所ずつの停留所を結ぶシャトルバスが運行される事業に全面的に協力をする。

●**要望** かねてより提案している観光だけでなく通勤・通学・通院、地下鉄やJR、南海と羽曳野市を結ぶ堺・羽曳野間路線バス実現に向けて風が吹き始めている。期間限定バスの存在を市内外にアピールし、継続運行されるよう運用事業者と良好な関係を築く努力をしてほしい。

●**質疑** 峯ヶ塚古墳は墳丘部に入れる数少ない古墳。常時入場可能とし、古市古墳群のランドマークとして峰塚公園と一体とした史跡古墳公園とする考えは。

●**市長** 史跡古市古墳群整備検討委員会の助言、大阪府や文化庁の意見を踏まえ、世界文化遺産にふさわしい質の高い整備を行っていききたい。

●**要望** 墳丘部に上がり、丘から見るヤマトタケル御陵など巨大古墳群と二上山・金剛山系のパノラマに圧倒された。堺市エリアにあの光景はない。唯一無二の体験と眺望を楽しめる峯ヶ塚古墳からの眺めは、観光客に古代から変わらない眺望を記憶に焼きつけてもらえるかと確信している。観光拠点となる予定の浅野家住宅や竹内街道、翠鳥園遺跡公園、LICCはびきのとの相乗効果など、峯ヶ塚古墳整備によって古市駅前周辺は観光客でにぎわう商店街へと変貌させうる潜在能力がある。ぜひ具体化してほしい。

花川雅昭（市民クラブ）



●**質疑** 地域の特色や施設などの立地条件から、市民のネットワーク形成を含む将来都市構造の基本方向は。

●**市長** まちづくりを進めていく上で、町の特色や個性を生かし、現在抱えている問題解決と合わせて、将来にわたって何が必要でどのような町にしたいか。また、そのためにはどのような選択をすべきかを見きわめ、長期的な視野に立って判断していく必要がある。

●**質疑** 昨年、大阪では、大阪府北部地震、台風21号等の災害に見舞われ、甚大な被害を受けた。また、富田林警察署での逃走事件では、市民生活に今まで経験したことのない恐怖と不安を与えた。これらの経験を踏まえ、市民を災害や犯罪から守るための今後の行政組織についての考えは。

●**市長** 災害に備える体制づくりがこれまで以上に重要。昨年の教訓や近年の災害の特徴等を踏まえ、市の災害対応の組織、現行の災害対策本部等については、見直し作業を行う。また、市民が安全で安心して暮らせるために、今年1月安全なまちづくりに関する協定を羽曳野警察と交わし、より一層強固に市民を災害や犯罪から守ることに全力を尽くす。

●**質疑** 障害者、高齢者を含む全ての市民に優しい住環境の方向性は。

●**市長** 住まい、医療、介護予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの進化、推進を重点目標に位置づけ、障害の有無や程度にかかわらず、だれもが住み慣れた地域で、自立して暮らせる共生のまちをしつかりと施策として推進する。

●**質疑** 現在、就学前教育の編成を行っているが、幼少中一貫教育も踏まえ、児童数が減少するであろう小・中学校の学校教育の編成について聞きたい。

●**市長** 現時点で、小・中学校の統廃合等の考えはないが、少子化が進んでいることは避けて通れない問題である。今後、魅力のある学校園をどう形成するかが大きな課題である。学校は、地域に支えられ、見守られて地域に根づいてきた。校区再編成や統廃合には地域性や利便性など慎重に議論を進める。

●**質疑** 幼保の無償化を踏まえ、新たな子育て施策や構想はあるのか。

●**市長** 無償化後、保育ニーズの動向を把握し、引き続き待機児童解消の対応をしていく。子育ては、まず家庭が第一義的な責任があり、その認識のもとに幼児期の学校教育、保育、そして地域の子ども・子育て支援を総合的に推進するとともに、子どもの視点に立った子育て施策の充実を図る。

●**質疑** 職員は、すばらしいスキルを持っている。そのスキルを最大限生かすことが大事であり、職員の発想を積極的に取り込むことが行政の大きな成長につながると考えるがどうか。

●**市長** 自治体は常に新しい視点で事業を創造することが重要である。新規職員を複数の部署へ配置するなど適性を十分見きわめ、適切な配置につなげていく。若手や中堅職員の斬新かつ

柔軟な発想からプロジェクトチームを結成し、特定の課題に集中的に取り組んでいる。ある意味失敗を恐れることなく、職員の創造性豊かな発想・提案を大切にし、より一層高い市民サービスの提供に取り組んでいく。

●**要望** 職員のモチベーションを高め、企画立案していくことを要望するが、市長並びに上司が率先して、「失敗を怖がらず精いっぱい取り組み。後のことは心配するな」という背中を押してあげることが一番大事。すばらしい企画立案、よりよい事業から、市民サービスの向上に必ずつながると考える。

●**質疑** 市民に当市の歴史文化のすばらしさと誇りを周知し、地域を巻き込んだ活性化が必要と感ずるがどうか。

●**答弁** 当市には歴史街道や多くの遺産がある。さらに、祭礼行事や文化遺産が存在する。先人たちの英知と努力によって創造され、守り伝えられてきた。市民が文化財に親しみ、その価値への理解を深める必要がある。今後市民参加による文化財保存の担い手の支援・育成などに努め、地域の活性化や賑わいが創出されることが次世代への継承につながっていくと考える。

●**質疑** AI環境の充実により、行政と市民とのコミュニケーションの希薄化を懸念するが、どう考えるのか。

●**市長** AI環境は、人のつながりを希薄にするための道具ではなく、人と人がより深くつながるための時間をつくり出す道具であると考えている。より市民に寄り添った対応、窓口での思いやり・心遣いを持った対応、おもてなしができるように取り組んでいく。

●**質疑** 市長就任以来、健全な財政運営に努め、赤字財政から黒字財政へと

行政改革を行ってきたが、これに満足してはいけない。市民から、「もっと躍動感をもった羽曳野市してほしい。」という願いがある。新年度に向けての市政運営の骨格やコンセプトは。

●**市長** 再生から躍進へ、「躍動はびきの」をスローガンにして、新しい羽曳野づくりとして、地域の魅力を活かした、にぎわいと交流のまちづくりを進めながら、負担を先送りしない安定的な市政運営を常に心がけ、さまざまな施策に全力で取り組んできた。健全な財政運営に努め、事業の選択と集中、不断の改革を推進していくことが不可欠である。財布のひもを締め付けるところは締めつつも、やるべき施策については、積極的に取り組んでいく。

●**質疑** 平成31年度予算編成で市長がこだわった重点ポイントはどこか。

●**市長** 「魅力」「安心」「未来」をキーワードに、重点的ポイントとして編成を行っている。観光産業、交流の拠点づくりとして、歴史的資産を活用した羽曳野の魅力の発信、恵我ノ荘駅前広場の整備、健康寿命の延伸につながるウェルネス事業の充実、質の高い総合的な就学前教育・保育の推進を図り、未来を担う子どもたちへの施策など、当市独自の施策を行っていく。

●**要望** 市長が持続的な行政改革や市民ニーズの多様化・高度化の中で、選択と集中を行ってきたことは高く評価するとともに、緊縮財政のもと、堅実・実直に行財政改革をされ、財政の再建に結果を残してきた。これからも、「継続は力なり」の言葉どおり、引き続き市政運営のかじ取り役、行政手腕を発揮することを期待する。

渡辺真千 (日本共産党)



《市民生活の実態と自治体の役割について》

●**質疑** 31年度の施政方針の内容は、事業の羅列で、市長の思いや情熱が残念ながら伝わってこない。労働者の実質賃金は上がらず、国内消費も伸びていない。年金も下げられて、将来の不安が増大している。その一方で、大企業では内部留保が積み上がった大儲けしており、格差と貧困は広がるばかりである。市長は、このような状況をどう認識し、また、羽曳野市民の生活実態をどうとらえているのか。さらに、消費税増税による市民への影響をどう見ているのか。

●**市長** 景気は回復しているとしており、経済状況は改善の傾向が継続している様子はうかがえるが、豊かさの実感は薄いといわれている。消費税に対する考え方は、国の講ずる増税対策を市民にスムーズに届けられるようにする。

●**要望** 消費税増税の対応も「増税対策をスムーズに届けられるようにする。」というのみで、市民の生活不安に対応しようとする姿勢は感じられない。市民の生活実態を的確にとらえてもらいたい。

《子育て支援と3歳児保育について》

●**質疑** 今大きな問題となっている虐

待の問題、待機児童対策など多様な子育て支援の課題がある。少子化で近所に子育てする世帯が少ない。また、核家族化で気軽に相談したり、助け合える人がいない等、社会的な孤立化が進んでいる。市長の地域への子育て支援についての考えはどうか。また、要望が多かった3歳児保育をなかなか実施してこなかったため、公立幼稚園離れが進み、適正な集団を維持することができていないが、3歳児保育についての今後の考えはどうか。

●**市長** 1月から子育て世代包括支援センターを開設して、保健師等の専門職が相談窓口となり、必要な情報を提供し、きめ細やかなサポートを行っている。3歳児保育については平成30年度から、こども未来館たかわしと埴生幼稚園で、31年度は駒ヶ谷幼稚園で、32年度は羽曳が丘幼稚園と高鷲南幼稚園で3歳児保育を開始する。

●**要望** 子育て世代包括支援センターの役割は重要であり、虐待を早期発見ができる可能性もある。子育て世代包括支援センターと家庭児童相談員、子育て支援センターが常に連携できる体制づくりと人員の確保を要望する。3歳児保育については、どの地域に住んでいても同じサービスが受けられるようにすることが市の役割であることから、空き教室がある幼稚園では、すぐにでも3歳児保育を実現するよう要望する。

《子どもの健康と教育について》

●**質疑** 大阪府のチャレンジテストは、たった年一回のテストで内申点に影響を与えないというもので、テスト至上主義といっても過言ではない。テスト対策のための教育内容では、知ることが

楽しいと実感できる本当の教育はできない。一人一人とじっくり向き合える少人数学級や教職員の多忙化解消のために職員を増員できないか。

●**市長** 退職校長等の相談役、いろいろな学校運営についての相談をする専門員、初任者教員のサポート等、教育指導専門員を配置するなどしている。教員の定数改善の課題は、国や府に要望していく。

●**要望** 「知ることが楽しい」と実感できるのは、教職員が情熱を持って教育実践をするからこそであり、それが子どもに伝わるものである。少人数学級の効果はこれまでの実践からはつきりと表れている。今ある体制の中での工夫や国の制度改定にも期待するが、ぜひ、市独自で少人数学級や教職員の多忙化解消の実現を要望する。

《重点施策を進めるための職員配置について》

●**質疑** 重点施策を進めるためには、仕事の大半は、直接市民と接することが多いため、なんといってもマンパワーが重要である。当市では非正規化が進んでいる。労働条件や賃金について、正規職員と大きな開きがあることについては、社会問題となっている。非正規も正規も安心して働き続け、力が発揮できる職場を構築するためにはどうすることが必要と考えるか。

●**市長** 正規職員、再任用職員、嘱託員、非常勤職員、臨時的任用職員等さまざまな形態があり、業務内容などを踏まえて任用している。適材適所の配置で正規、非正規など任用形態にかかわらず、働きがいのある職場づくりに取り組んでいく。

●**要望** 非正規職員は労働条件や賃金

が低いと、この職場で専門的な仕事を身につけても、もっと良い条件の職場に移ることが多く、それが生かされない。非正規職員の労働条件と賃金の向上を要望する。また、仕事量が増えて、「ムリ」が目立っている。人員増を含め、職員配置の充実を要望する。

《市政運営の基本方針》と市長の政治姿勢について

●**質疑** 昨年の農地法違反事件に関連した報道事案、すなわち市長を初めとして相当な金額の物品を受け取ったという報道で、市政への信頼が大きく失われたことは間違いない。今後このようなことを防止するために倫理条例を設けるといえるが、それで失った信頼を回復できると言えるのか。また、住民自治のあり方、民主的な市政についてどう考えるか。

●**市長** この事案についても、速やかに市民の皆様にお伝えして再発防止に対処している。議員のご懸念をしっかりと受け止めさせていただき、「継続は力なり」と思っていただけに、市政運営に当たっていく所存である。また、住民自治の考え方については、現場、地域にかかわっていただいている各団体の会合等に足を運んでお話を伺っており、その手法を含め適切な方針を示していく。民主的な市政運営については、庁内の検討会議や議会に諮り、また、パブリックコメントを実施して民主的な運営に努めている。

●**要望** 「市政への信頼、住民自治、民主的な市政運営」の3つの視点は、市政運営の基本となるものと考える。この視点をとおそかにせず、常に謙虚な姿勢で市政運営していくことを望む。

通堂義弘（公明党）



《快適でうるおいのある 住みよいまちについて》

●**質疑** 雨水整備について、整備計画でどのような対策をしているのか。

●**市長** 集中豪雨に見舞われる中、平成31年度には、中長期的な雨水整備基本計画を策定し、浸水対策を効果的に進めていく。

●**要望** 局地的な豪雨に伴う雨量の増大による水路からの汚水対策を早急に講じていただき、管渠の老朽化についても対策を要望する。

《地域がつながり 安全で心安らぐまちについて》

●**質疑** 防犯カメラの申し込みは申請順となつているが、手順を見直す考えは。AEDの設置への取り組みは。

●**市長** 防犯カメラの設置助成制度は、公平性を担保する意味からも、申請方法や決定方法について検討していく。AEDの設置について、引き続き必要な救急措置が適切に行われるよう、取り組みを進めていく。

●**要望** 市として設置の予算を増額し、防犯カメラの助成対象台数増と、AEDを常備したい企業・自治会等に対する支援策を要望する。

《ともに支え合い 健やかに暮らせるまちについて》

●**質疑** ペアレントサポート事業の取

り組みと、風疹ワクチン無料接種の対象者への通知や受診方法は。

●**市長** 来年度からペアレントメンター事業を、大阪府が養成したペアレントメンターの派遣を受けて実施し、障害福祉課、健康増進課、こども課の3課が連携・共同して、計画的に事業を推進していく。風疹ワクチンの無料接種については、対象者約13,500人で、事業開始当初では、混乱等を避けるために、昭和47年4月2日から54年4月1日までの間に生まれた男性にクーポン券を発行し、段階的に実施するもので、対象から外れ、希望する場合、希望者に発行することも可能とされている。

●**要望** 職員の育成、メンターの研修やコーディネーターの配置を支援し、充実した支援事業への取り組みと、風疹ワクチン無料接種について、円滑に対応できるよう、休日・夜間の医療機関でも対応できる体制整備を要望する。

《未来に羽ばたく子ども・若者を育むまちについて》

●**質疑** 学校施設の安全対策として行っている点検は。児童虐待に関しての体制・市以外の機関との関連や情報共有は。子育て世代包括支援センター開設後の利用・相談状況は。

●**市長** 3年ごとに専門業者に委託して実施している。全市立学校で6月下旬から3月下旬までの期間で実施し、非構造部材の耐震化ガイドブックに基づく非構造部材の定期点検を今回の特殊建物定期点検とあわせて実施している。児童虐待への対応体制としては、家庭児童相談と要保護児童対策地域協議会の2つの機能を、こども課に設置して、専門職を配置して対応している。

設置が義務付けられている虐待防止ネットワークである要保護児童対策地域協議会は、こども課を事務局として設置し、市の関係各課、教育委員会、市立学校員を初め、大阪府富田林子ども家庭センター、藤井寺保健所などの機関で調整しており、要保護児童もしくは要支援児童及びその保護者などの実態把握や対応、情報共有を行っている。

当市では法令で定められた児童福祉司と、それに準ずる者として児童指導員について、それぞれ1名、合計2名を配置している。今後、専門職を含めた必要な人員の配置に努めていく考えである。子育て世代包括支援センターは、必要に応じて支援プランの策定、地域の保険・医療、また福祉などの機関と連絡・調整を行い、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供する体制を構築することを目的としている。状況は、妊娠の届け出が54件あり、全ての方と面接を行い、若年での妊娠、経済的な問題、不安が高いなど、より手厚い継続的な支援・関係者の調整が必要な16件の方には支援プランの作成を行った。

●**要望** 古い建物と新しい建物では劣化具合が違ふ。古い建物については、点検期間を短縮して細かい点検を行い、さらなる安全な学校施設への対応を要望する。児童虐待防止対策について、政府は2019年度から3年間で、虐待対応に当たる専門職、児童福祉司を増やす計画だったが、2019年度に前倒しする方針も決めた。当市も児童福祉司を増員して、さらなる児童虐待防止の強化に取り組むことを要望する。

●**魅力発見** 賑わいと創造にあふれるまちについて

●**質疑** 「(仮称)はびきの観光・移住創造かんぱにー」の進捗状況と、羽曳野市中小企業振興基本条例の周知徹底は。

●**市長** ハード事業は、事前調査として建物の測量、地盤の調査、耐震化に向けた課題整備、改修方法などを検討している。ソフト事業では、羽曳野版DMOの運営基盤となる戦略や経営方針の策定に必要なデータの収集・調査を実施している。中小企業振興基本条例の周知方法は、市広報でお知らせする予定。その他、啓発パンフレットなどを作成し、条例制定の過程においてご協力をいただく労働・商工団体とともに周知を図っていききたい。

《歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまちについて》

●**質疑** 新たな市民プールについて、当初、屋外プールとして進めていると聞いていたが、現在は屋内温水プールの方向で計画を進めるとあるが、どのような理由で変わったのか。

●**市長** プール本体の整備となる第2期整備については、改めて検討してきたが、夏場だけではなく、年中利用できて、レクリエーションの場に加えて、高齢者も含めた市民の健康増進の場として有効に活用できることなどから、屋内温水プールの方向で計画を進めることとした。

●**要望** 屋内温水プールについては、市民全体の利用も含めて、移動手段の検討、子どもたちが楽しめる遊具等の設置を要望する。

《その他の質問》

●RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）について。

●地方税共通納税システムについて。